

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：34504

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K14934

研究課題名（和文）第二次大戦後の東アジアにおける人口移動を起因とする都市の空間編成に関する史的研究

研究課題名（英文）A Historical Study on the Spatial Organization of Cities Caused by Population Movements in East Asia after World War II

研究代表者

石樽 督和 (Ishigure, Masakazu)

関西学院大学・建築学部・准教授

研究者番号：10756810

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では第二次世界大戦後の大規模な人口移動に起因して形成が進んだ仮設市街地の形成過程を明らかにした。具体的には福岡、小樽、岐阜、東京（新橋、代田橋、公道の露店）を対象とし、また戦後の仮設的市街地の形成の母体となった戦中期の建物疎開について東京の一部の実態を明らかにした。その成果は都市計画学会の査読論文、日本建築学会の査読論文、同学会の研究発表、図書で公表した。現代の日本の都市を捉える上で重要な知見を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで戦前あるいは戦後を対象としてきた東アジアの都市史を、第二次世界大戦を貫いた変化の歴史として捉え直す点に学術的意義がある。政治的状況が激変する第二次世界大戦前後の東アジアにおいて、都市空間はどのような変化を遂げたのか、都市空間を微視的に復原・観察することで明らかにした具体的な生活レベルでの空間の変化は、今の都市を捉え直し、未来を構想する上でも重要なという意味で現在の意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the formation process of temporary urban areas that were progressively formed as a result of large-scale population movements after World War II. Specifically, the study focused on Fukuoka, Otaru, Gifu, and Tokyo (Shinbashi, Daitabashi, and street stalls on public streets), and clarified the actual conditions in some parts of Tokyo regarding the evacuation of buildings during the war, which became the matrix for the formation of temporary urban areas in the postwar period. The results were published in a refereed paper by the City Planning Institute of Japan, a refereed paper by the Architectural Institute of Japan, a research presentation by the same institute, and a book.

研究分野：建築史・意匠

キーワード：戦後復興期 闇市 マーケット 露店 引揚者 建物疎開

1. 研究開始当初の背景

2010年代、博士論文をベースとして戦後日本の都市空間形成について、特に闇市に注目し明らかにする書籍の刊行が進んだ。本研究代表者もそのうちの一つである『戦後東京と闇市』(2016年)を上梓している。そうした研究の中では、戦前からの地元有力者が戦後の闇市を中心とした仮設的な市街地形成を主導した一方、引揚者や、在日外国人、GHQの軍人などがまとまって移動することで、戦後の都市の空間編成が進んだことが明らかになっている。

歴史的に見ても、普遍的に人は移動し、都市空間をつくりあげてきた。図1は第二次世界大戦後の東アジアにおける人口移動を示している。第二次大戦後の東アジアにおける大規模な人口移動に注目した場合、大量の人々が引き揚げてきた港湾都市では、その影響を受けた都市形成はどのように起きてきたのか？また、旧植民地から日本人が引き揚げた後、その都市空間には誰が移動し、どんな形成過程をたどったのか？こうしたことを具体的に明らかにしつつ、第二次大戦後の東アジアの都市形成の特質を明らかにするというのが、本研究課題の核心をなす学術的「問い」である。



図1：第二次世界大戦後の東アジアでの人口移動

本研究の着想に至った経緯には、東京の都区部に戦後つくられた引揚者住宅、それも公的に供給されたものではなく、引揚者団体が自ら建設したものを複数調査するなかで、明らかになってきた事実がある。それは引揚者がつくった集住地区でありながら、建設からしばらくすると生活の安定した引揚者はその場から引っ越していき、代わりに他の社会的弱者が入り込むという流動性があったことだ。そうした後から入ってきた人々の中には、一定数、朝鮮戦争による韓国国内の情勢不安を背景に来日してきた人々がいた。戦後の仮設的な居住地や闇市を考える上では、「戦後日本」という枠組みから「冷戦期東アジア」へと視野を拡大する可能性が開かれた。

こうした事実を背景に2017年以降、日本国内で考えてきた戦後の仮設的な商業空間(闇市・マーケット・露店)とそれに付随する居住空間の研究を、東アジアで展開する準備を始めた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第二次大戦後に東アジアで起きた大規模な人口移動(日本人の外地などからの引揚、国内の外国人の自国への引揚、国民党とその家族の中国大陸から台湾への移動、朝鮮戦争を契機としたコリアンの南下、および日本などへの移住)を起因として、日本・台湾・韓国の都市空間がいかに編成されていったのかを、とくに港町を対象として明らかにすることである。

研究を進めながら、空間と社会の両面から近現代の東アジアの都市空間を読み解く方法論を組み立てることも目指した。

3. 研究の方法

本研究では現地でのフィールドワーク（建物・都市空間の実測調査、3D スキャン、聞き取り調査等）と史料調査によって情報を収集し、都市空間の形成過程を明らかにした。

第二次世界大戦後に建設された建物や、その後改築されたが当初の空間性が持続している事例については実測調査を行い、図面化し、当初の空間構成や建築形態を復元的に考察した。

また対象とする建物群や都市空間が立地する土地の履歴については、法務局所蔵の旧土地台帳と旧土地台帳付属地図を基礎的な資料として、地割の変化と所有者の変遷を明らかにし、地上に立ち上がった空間との関係性を分析した。

また建物や都市空間については、空中写真、事業誌掲載の写真、住人が撮影したヴァナキュラー写真などといった多様な写真史料を収集することで、過去の状況を復元的に明らかにした。

4. 研究成果

本研究開始当初は、対象を日本・台湾・韓国の都市としていたが、新型コロナウイルス危機の影響を受けて、本研究期間では実地での台湾と韓国の都市調査ができなかった。その分、国内の都市において「第二次世界大戦後の東アジアにおける大規模な人口移動を起因とした都市空間編成」について、特に仮設的な空間形成の過程を明らかにすることができた。具体的には港町である（1）福岡、（2）小樽と、（3）人口移動が大規模に起きた東京の都市空間とそれに関わった人、（4）引揚者集団が戦後の駅前空間をつくっていった岐阜について、（5）日本の都市において第二次世界大戦後の仮設的市街地形成の母体となった戦中期の建物疎開について研究を行った。

（1）福岡市天神地区の戦後の商業空間形成

福岡市の天神地区の戦後の商業空間形成について、特に罹災した博多部の商人が福岡部で商店街を再興した「新天町商店街」、戦時体制下に空き店舗になった場所に商人が入居した「柳橋連合市場」、復興計画で変容する闇市として「三角市場」に着目して明らかにした。

成果は査読付論文「福岡市天神地区における近現代商業空間の展開と変容に関する研究」『都市計画論文集』（2020年55巻3号,p.1334-1341）として公開した。

（2）小樽市内に引揚者集団が形成を進めた市場群について

小樽市内の建物疎開跡地と河川上に建設された市場についてフィールドワークと史料調査を進めた。建物疎開跡地に建設された引揚者集団による市場は、1950年代に防火建築帯として1階を市場、2階以上を住宅とする鉄筋コンクリート造の建物へと建て替えられた。その過程を明らかにした。この成果は査読論文としてまとめる作業を進めている。

また河川上に市設で建設された妙見市場について実測調査を行った。この成果についても公表の準備を進めている。

（3）第二次世界大戦後の東京の仮設的市街地形成

第二次世界大戦後の東京で形成が進んだ2ヶ所の仮設的市街地について、詳細に明らかにした。また東京全域に関わる露店の空間についてと、闇市の更生を目指した貴族院議員松本学の動きについても明らかにした。

ひとつは引揚者が道路用地に建設した代田橋の店舗併用住宅長屋の形成過程について、実測調査と聞き取り調査、現地提供を受けた史料を中心に形成過程を明らかにし、成果は「道路敷地に建設された引揚者住宅の形成と変容に関する調査研究-杉並区「ハモニカ長屋」を対象として」『日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集』（2020年、p.779-780）として公開した。

もうひとつは新橋駅前の建物疎開跡地に建設された新生商店街（狸小路）について、史料から当時の空間構成を復原するとともに、その後の再開発で新生商店街（狸小路）を前身として生まれた新橋駅前ビルの地下街のフィールドワークを行い、空間構成を明らかにした。成果は査読付論文「戦後復興期の新橋駅東口駅前に建設されたマーケット「新生商店街（狸小路）」の空間構成と営業者変遷」『日本建築学会計画系論文集』（2022年87巻795号、p.936-946）雑誌記事として公開した。

また都内の道路上に発生した露店についても空間的な検討を進め、成果は「占領・復興期の東京の露店の配置から見る商業空間の再起」『2021年度日本建築学会関東支部研究報告集』（2022、p.553-556）として公開した。

闇市の更生を目指した貴族院議員松本学の動きについては、書籍掲載論文「闇市転生を「空想」する-松本学の日本ヴォランティア・チェーン構想と東京のテキヤたち」『空想から計画へ 近代都市に埋もれた夢の発掘』（思文閣出版、2021）として成果を公表した。

(4) 岐阜駅前に引揚者が建設した商業空間の形成

すでに研究が進んでいるハルピンからの引揚者集団が建設した岐阜駅前のハルピン街が、戦災復興土地区画整理事業によって立退を進められる間に駅から北西に離れた寺地に建設された大ハルピン街住宅および厚生住宅について、現存状況の把握と現存建物の実測調査を行うことで、当初の建物を復原的に明らかにした。成果は 2023 年度の日本建築学会大会にて公開を予定している。

(5) 東京都下で実施された建物疎開について

本研究を進めるにあたって、大規模な人口移動を受け止め仮設的な市街地が形成される場所には「空き」が重要であるということを再認識した。東京では特に、戦中期の建物疎開が戦後の仮設的市街地形成の母体となっていることが明らかとなった。そのため、建物疎開がどこで実施されたのかを明らかにし、戦後のマーケットの建設地との関係を明らかにした。前者の成果は査読論文「東京都の「建物疎開地区図」と「帝都疎開事業一般図」について」『日本建築学会技術報告集』(2022年28巻70号, p.1557-1562)として、後者の成果は「東京都区部における建物疎開と占領期のマーケットの形成の関係性について」『学術講演梗概集 DVD 建築歴史・意匠 2021』として公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石樽督和	4. 巻 8
2. 論文標題 新刊紹介 西井麻里奈著『広島 復興の戦後史 - 廃墟からの「声」と都市 - 』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石樽督和	4. 巻
2. 論文標題 占領・復興期の東京の露店の配置から見る商業空間の再起	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 2021年度日本建築学会関東支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 553-556
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石樽 督和	4. 巻 174
2. 論文標題 「焼け遺ったまち 下北沢の戦後アルバム」を読んで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 「北沢川文化遺産保存の会」会報	6. 最初と最後の頁 1~2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 橋口 拓、伊藤 裕久、石樽 督和	4. 巻 55
2. 論文標題 福岡市天神地区における近現代商業空間の展開と変容に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 1334~1341
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11361/journalcpj.55.1334	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蔭山 亮、伊藤 裕久、石樽 督和	4. 巻 2020年
2. 論文標題 道路敷地に建設された引揚者住宅の形成と変容に関する調査研究-杉並区「ハモニカ長屋」を対象として-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集(CD-ROM)	6. 最初と最後の頁 779～780
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木 優、伊藤 裕久、石樽 督和	4. 巻 2020年
2. 論文標題 横浜海浜住宅地区(Yokohama Beach DH-Area)の復元的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集(CD-ROM)	6. 最初と最後の頁 781～782
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石樽 督和	4. 巻 2021
2. 論文標題 東京都区部における建物疎開と占領期のマーケットの形成の関係性について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集DVD建築歴史・意匠 2021	6. 最初と最後の頁 527-528
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石樽 督和、木村 真慧、伊藤 裕久	4. 巻 87巻795号
2. 論文標題 戦後復興期の新橋駅東口駅前に建設されたマーケット「新生商店街(狸小路)」の空間構成と営業者変遷	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 936-946
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.87.936	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石樽 督和、佐藤 洋一	4. 巻 28巻70号
2. 論文標題 東京都の「建物疎開地区図」と「帝都疎開事業一般図」について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 1557-1562
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aijt.28.1557	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 石樽督和
2. 発表標題 占領・復興期の東京の露店の配置から見る商業空間の再起
3. 学会等名 日本建築学会関東支部研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋口 拓、伊藤 裕久、石樽 督和
2. 発表標題 福岡市天神地区における近現代商業空間の展開と変容に関する研究
3. 学会等名 日本都市計画学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 蔭山 亮、伊藤 裕久、石樽 督和
2. 発表標題 道路敷地に建設された引揚者住宅の形成と変容に関する調査研究-杉並区「ハモニカ長屋」を対象として-
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青木 優、伊藤 裕久、石樽 督和
2. 発表標題 横浜海浜住宅地区(Yokohama Beach DH-Area)の復原的考察
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中川理、空想から計画へ編集委員会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 750
3. 書名 空想から計画へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------